白石町文化財調査報告書第１集

多　田　遺　跡

—Ｈ・Ｊ地区—

平成４年３月

佐賀県白石町教育委員会

白石町文化財調査報告書第１集

多　田　遺　跡

—H・J地区—

平成４年３月
佐賀県白石町教育委員会

序

本書は、農業基盤整備事業に伴って実施された多田遺跡の発掘調査報告書です。多田遺跡は、白石町内においては比較的早くから開発の行われた地域で、『和名類聚抄』には「多駄」と、『河上神社文書』の「河上宮造営用途支配惣田数注文」（正応５年－1292）には「太田荘　二百五十丁」と記されています。また、周辺からは古墳時代後期から奈良時代の土師器や須恵器等が多く採集されており、その存在は早くから知られていました。

発掘調査の結果、住居跡は検出されませんでした、古墳時代後期から奈良時代を中心として、一部に平安時代を含む多くの遺構・遺物が出土しました。

これらの資料は、文献に記された「多駄」地区周辺の古代における開発の様子を具体的に示すのみならず、白石町の文化・歴史を解明するうえでも貴重な情報を我々に与えてくれます。この報告書が、郷土に対する認識と理解を深め、啓蒙の一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、多大のご指導とご協力を賜りました関係各機関並びに地元の方々に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成４年３月

白石町教育委員会

教育長　吉　田　　忠

例　言

1．本書は農業基盤整備事業に伴い実施した多田遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は国庫補助を受け、平成元年度はＨ地区・平成２年度はＪ地区を白石町教育委員会が実施した。

4．遺構及び出土遺物の実測及び写真撮影は調査員が行った。

6．出土遺物の復元・実測・製図は調査員及び整理作業員が実施した。

7．調査においては佐賀県文化財課のご支援・ご協力を受けた。

8．本書の執筆・編集は調査員が行った。

凡　例

1．遺構番号については各遺構毎に一連番号とし、ＳＫ＝土壙、ＳＤ＝溝、Ｐ＝柱穴の分類記号を表記した。

2．挿図中に用いた方位は磁北を示す。

3．遺物実測図中において須恵器は断面を黒く塗りつぶした。

4．図版の遺物写真は、挿図と対照できるよう（　　）内に挿図番号と挿図内遺物番号を併記した。

本　文　目　次

Ⅰ　序説……1

　1．調査に至る経緯……1

　2．調査体制……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境……2

Ⅲ　Ｈ地区……5

　1．遺構と遺物……5

　2．その他の出土遺物……12

Ⅳ　Ｊ地区……17

　1．遺構と遺物……17

　2．その他の出土遺物……17

Ⅴ　小結……17

挿　図　目　次

Ｆｉｇ．１　町内主要遺跡分布図（１/２５０００）……2
Ｆｉｇ．２　調査地区位置図（１/１０００）……4
Ｆｉｇ．３　ＳＫ１３１・１３５・１３６・
　　１４１・１４７・１５５実測図（１/６０））……6
Ｆｉｇ．４　ＳＤ０２３・０２５実測図（１/６０））……7
Ｆｉｇ．５　ＳＫ１３０・１３１・１３３・１３５・１３６出土遺物実測図（１/４）……9
Ｆｉｇ．６　ＳＫ１４１・１４４・１４７・１４８出土遺物実測図（１/４））……11
Ｆｉｇ．７　ＳＫ１４９・１５５
　　ＳＤ０２３・０２４・０２５出土遺物実測図（１/４）……12
Ｆｉｇ．８　その他の出土遺物実測図（１/４））……13
Ｆｉｇ．９　Ｈ地区遺構配置図（１/２００）……14・15
Ｆｉｇ．10　ＳＫ２２６・２４６実測図（１/６０）……16
Ｆｉｇ．11　ＳＫ２２６・２４６・その他の出土遺物実測図（１/４）……18
Ｆｉｇ．12　Ｊ地区遺構配置図（１/２００）……18

図　版　目　次

ＰＬ．１　１　Ｈ地区全景（北から）　２　Ｈ地区全景（南から）
　　３　ＳＤ０２４（南から）
ＰＬ．２　１　Ｊ地区全景（東から）　２　ＳＫ２４６（東から）
　　３　ＳＫ２５０・２５１・２５２（東から）
ＰＬ．３　ＳＫ１３０・１３５・１３６・１４１・１３６・１４１・
　　１４４・１４７出土遺物
ＰＬ．４　ＳＫ１５５、ＳＤ０２４、Ｈ地区表土中、ＳＫ２２６出土遺物
ＰＬ．５　Ｊ地区表土中出土遺物

Ⅰ　序　説

1．調査に至る経緯

白石町では昭和51年度より農業整備事業が実施されているが、白石西第３工区においては平成元年度・平成２年度にそれぞれ当該地区周辺で事業が計画され、各前年度に佐賀県文化課（現、文化財課）の協力を受け、水路計画部の確認調査を実施した。その結果、遺跡の存在が明らかになり、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良課・白石町教育委員会の四者で協議を重ねた結果、削平される水路部分については発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。

2．調査体制

調査主体　白石町教育委員会

事務局　教育長　吉田　忠
社会教育課長　副島　繁
社会教育係長　白石政行(～平成２年度)栗山和久(平成３年度～)
社会教育係主事　松尾裕哉(～平成元年度)武富　健(平成２年度～)
瀬戸口　玲子(平成２年度～)

調査員　社会教育係主事　渡部俊哉

調査指導　佐賀県教育委員会文化課(現、文化財課)

発掘作業員　福島タツエ・香月ツタエ・小川幸子・前田ユキ・北島秋雄・前田吉次・溝口勝代・小野ミチ・大串和子・前田信子・溝口ハル子・古田ノブ子・香月ヤスエ・吉岡フキヨ・松尾タエ子・武富澄子・松尾カツヨ・松尾ツワ・福田健次郎・井上智恵子・石橋好江・野田ミツヨ・池上由美子・吉岡ヒロ子・馬場米子・石橋ハツヨ・栗山君子・鶴田絹江・西岡藤世・栗山好江・副島武

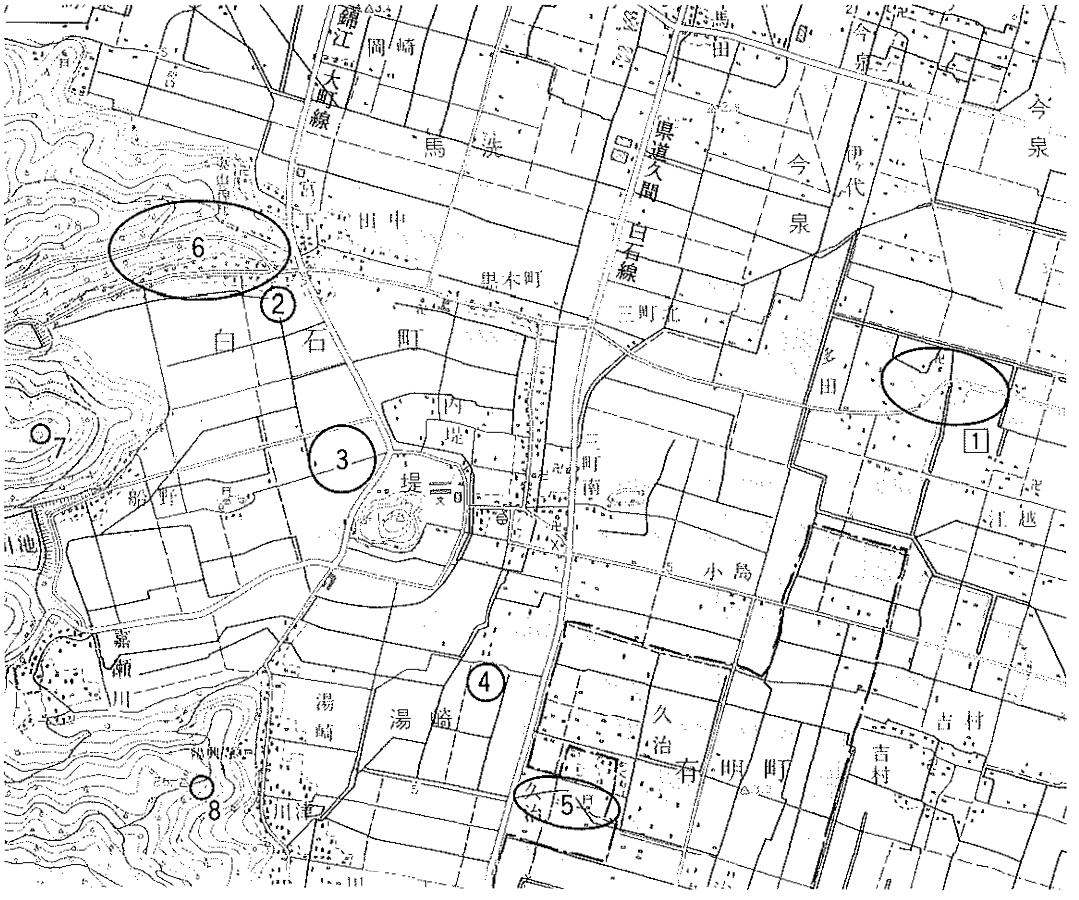
整理作業員　内野千恵子・稲富敬子・渕上房枝・田中順子・大串和子・山口登美子・副島武子・溝口京子・江口幸子

調査協力　地元各位・佐賀県農林部・白石町土地改良課

Ⅱ　遺跡の位置と環境

多田遺跡は白石平野の西端にあたり、大字今泉字多田・大字甘治字一本杉に位置する。白石町中心部より西約1.5… の標高約2.0～2.4mを測る水田地帯に広がっている。

北は大町町との町境である六角川が大きく蛇行して東流し、西は南北に杵島山系が連なる。詳しく微地形を見ると、杵島山系からそれぞれ東に延びる妻山丘陵と稲佐山丘陵に挟まれた部分が東側へ舌状に微高地が張り出している。更にこの微高地から東側の多田地区に延びた微高地東端付近に多田遺跡が位置している。[①]



1　多田遺跡　　2　妻山遺跡　　3　船野遺跡　　4　湯崎東遺跡　　5　久治遺跡　　6　妻山古墳群
7　船野山古墳群１号墳　　8　湯崎古墳群

Fig.　1　町内主要遺跡分布図(1/25000)

町内の縄文時代の遺跡についてはほとんど知られておらず、船野遺跡において晩期の壺・浅鉢が少数検出されたのみで、明確な遺構はない。弥生時代の集落として中期を中心とする船野遺跡、後期を中心とする湯崎東遺跡[②]があり、それぞれから当地方の軟弱地盤に対する地盤沈下対策を施した掘立柱建物が検出されている。詳細は不明だが、妻山遺跡も同時代の集落跡であると考えられる。当時の墓制を示すものとして、昭和36年の林道工事中に妻山丘陵で甕棺・箱式石棺・石蓋土壙墓各1基が発見されている[③]。

古墳時代の集落跡として湯崎東遺跡が引き続き営まれ、陶邑産の瓦が検出されている[④]。後期を中心とする集落跡としては多田遺跡・久治遺跡[⑤]が知られている。これらの各遺跡においては住居跡が検出されておらず、規模・内容等詳細の不明な点が多い。

杵島山系には多数の古墳が築造されているが、前期に遡る古墳の存在は知られていない。5世紀代の首長墓として、全長約40mの前方後円墳を中心とし4基の小円墳を伴う湯崎古墳群がある。佐賀県下の前方後円墳分布のほぼ西限に当たる位置を占める点など、重要な古墳である。その後に続く首長墓として、直径約40mの円墳で、単室両袖式横穴式石室を内包する船野山古墳群1号墳(通称、かぶと塚)がある。昭和48年の県文化課による石室内調査により鉄刀・鉄鏃・短甲等が出土した。線刻のある円筒埴輪片が採集されており、5世紀末の築造と考えられる[⑥]。後期になると杵島山系の各支脈に群集墳が築造されたが、昭和37年以降の蜜柑園造成により大半が未調査のまま消滅し、詳細は不明である。

奈良時代以降にも湯崎東遺跡・久治遺跡・多田遺跡において集落が営まれており、それぞれから墨書・刻書土器が検出されている。

① 佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』7　1989年3月
② 佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』8　1990年3月
③ 『新郷土』佐賀県文化館　1962年
④ 蒲原宏行・三辻利一・岡井剛・杉直樹「佐賀県出土古式須恵器の産地同定―第2報―」『古文化談』第18集　九州古文化研究会　1987年
⑤ 佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』8　1990年3月
⑥ 蒲原宏行・本田秀樹「佐賀・長崎県の円墳」『古代学研究』123　古代学研究会　1990年

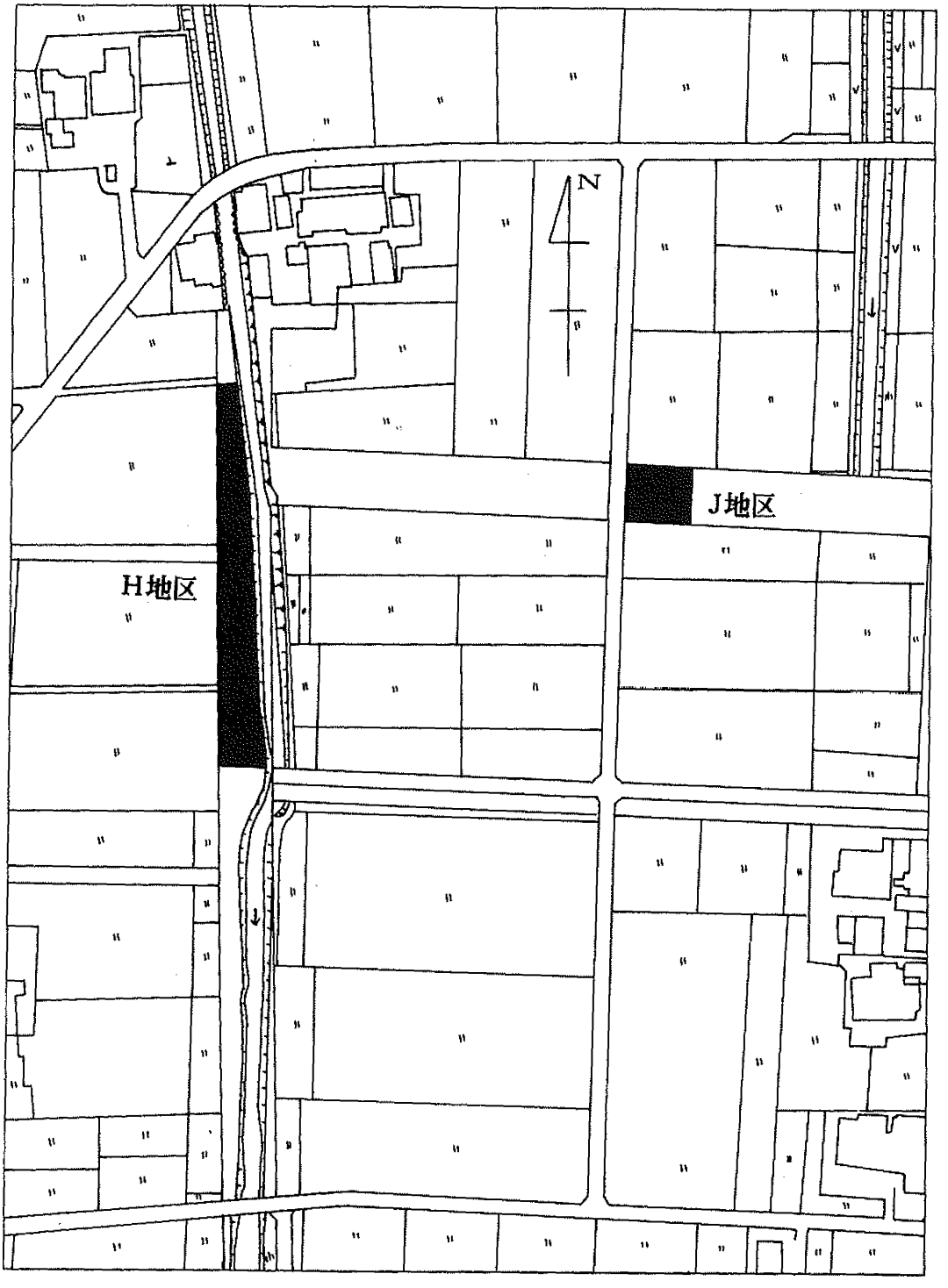


Fig. 2　調査地区位置図（1/1000）

Ⅲ　Ｈ　地　区

１．遺構と遺物

ＳＫ１３０　調査区北端付近で検出された東西方向の小土壙で、全長57cm、幅19cm、深さ４～９cmを測る。

ＳＫ１３１（Fig. ３）　二段掘りの楕円形土壙で、上段は長軸1.4m、短軸1.3m、深さ35cm、下段は長軸85cm、短軸75cm、深さ20cmを測る。北西部隅に直径20cm、深さ9cmの小穴がある。

ＳＫ１３３　長軸60cm、短軸42cm、深さ36cmを測る楕円形土壙である。

ＳＫ１３５（Fig. ３）　調査区の制限から全体を検出できなかったが、確認された範囲内で東西3.3m、南北4.3mを測る不整形土壙で、底部は北側で深さ20cm、南側へ徐々に浅くなっている。東側でＳＫ１３６に切られている。

ＳＫ１３６（Fig. ３）　ＳＫ１３５東側を掘削し周湟状を示す。断面はＡ－Ａでは二段掘りで上幅35cm、深さ15cm、Ｂ－Ｂでは上幅40cm、深さ12cm、Ｃ－Ｃでは上幅62cm、深さ７cmを測り、南側へ延びるに従い上幅は広がるが深さは浅くなる。

ＳＫ１４１（Fig. ３）　調査区の制限から全体は確認できなかったが、確認された範囲では東西1.1m、南北1.2m、深さ10cmを測る台形状土壙である。南北それぞれ底部に小穴が掘られている。

ＳＫ１４４　調査区の制限から全体は確認できなかったが、確認された範囲では東西2.5m、南北4.0mを測る。ＳＫ１４５・１４６・１４７・１４８に切られている。深さは４～７cmと非常に浅く、また規模の割には遺物の出土が極めて少ない。

ＳＫ１４７（Fig. ３）　調査区の制限から全体は確認できなかったが、確認された範囲では東西4.2m、南北4.3mを測る台形状土壙で、北西部は三段掘りを示す。深さは南側で35cmを測る。

ＳＫ１４８　調査区の制限から全体は確認できなかったが、確認された範囲では東西2.5m、南北3.9mを測る不整形土壙である。深さは28～43cmを測る。

ＳＫ１４９　ＳＫ１５０に切られた不整形土壙で、東西2.5m、南北5.2m、深さ３～６cmを測る。

ＳＫ１５５（Fig. ３）　ほぼ南北に延びるＳＤ０２５の北端で検出された土壙で、検出された範囲では長軸1.5m、短軸0.8m、深さ25～30cmを測る。北側掘方部に楕円形の小穴が、底部に径20cmの小穴４ヶが掘り込まれている。

ＳＤ０２３（Fig. ４）　調査区の北側で検出されたほぼ東西に延びる溝で、約3.2mが検出された。最大上幅は1.5m、断面は逆台形を示し、深さは35cmを測る。

ＳＤ０２４　調査区東端をほぼ南北に延びる溝だが、調査区の制限から上幅は検出でき

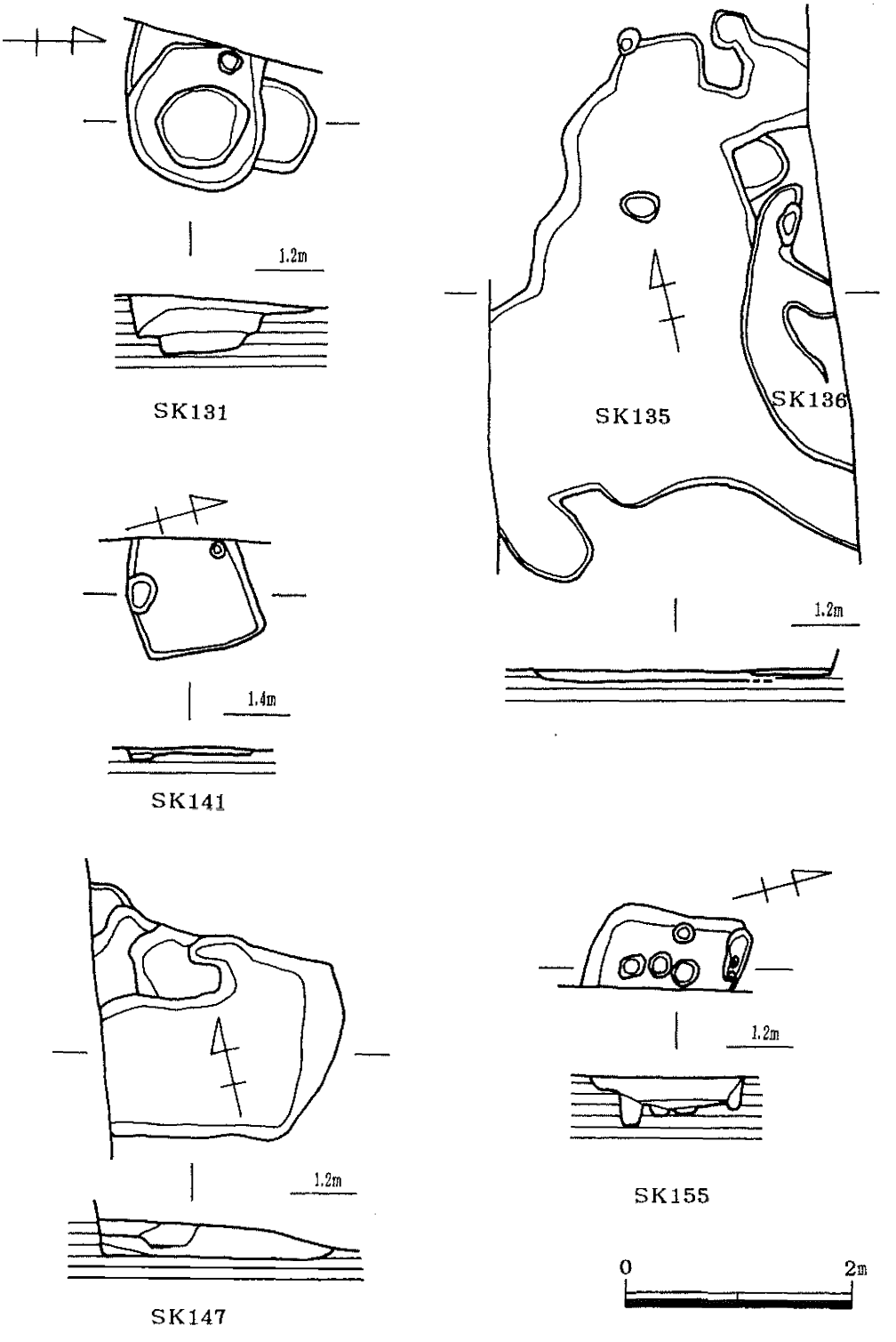


Fig. 3　ＳＫ131・135・136・141・147・155実測図（1/60）

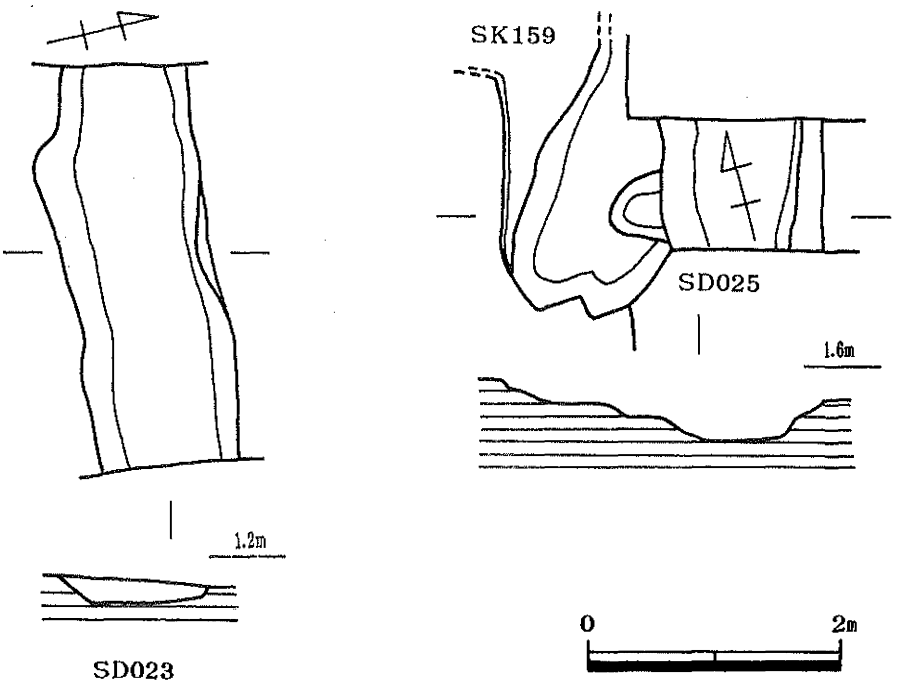


Fig. 4　ＳＤ023・025実測図（1/60）

なかったものの、北端と南端は確認できた。全長約21mで、深さは南端で50cm、北端で13cmと南側から北側へと徐々に浅くなっている。

南端では上幅が東側へ約30㎝広がり、二段掘りを示す。完形の須恵器壺が置かれていたが、掘削機による表土除去の際に口縁部を破損した。

ＳＤ０２５（Fig. ４）　ＳＤ０２４の南約４mの位置から、主軸をほぼ南北にして延びる溝であり、約15mを確認した。南側で調査区を拡幅した部分では上幅2.4m、深さ40cmを測る。

ＳＫ１３０出土遺物（Fig. ５－１～３）　いずれも鉢で、**１**は口縁部がやや内湾する。復元口径14.3cm、器高6.5cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は縦横方向ハケ、内面はナデ調整。**２**は口縁端部は直立し、外面が少し窪む。復元口径17.0cm、器高5.1cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は横方向ハケ目、内面はハケ目の上にナデ調整か。**３**は口縁端部が少し外反し、復元口径13.6cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面上位は縦横方向のヘラナデ、下位は弱いナデ調整か、内面はナデ調整。

ＳＫ１３１出土遺物（Fig. ５－４～５）　いずれも杯で、内外面ともに細かい横方向のヘラ磨きと思われるが、明瞭ではない。**４**は復元口径14.2cm、**５**は復元口径14.1cm。

ＳＫ１３３出土遺物（Fig. ５－６）

杯で復元口径11.3cm。口縁部立ち上がりは大きく内傾し、内外面ともに横ナデ調整。底部外面は回転ヘラ削り、内面はナデ調整。

ＳＫ１３５出土遺物（Fig. ５－７～18）

壺（７～９）　**7**は口縁部がやや外湾し肥大する。復元口径18.0cm。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面は縦方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。**8**は小型壺で復元口径8.4cm。口縁部外面に縦方向ハケ目の上に内外面は横ナデ調整。胴部外面は指ナデ。**9**は口縁端部外面が下方に肥大する。復元口径19.8cm。口縁部内外面は横ナデ調整。

甕（10～13）　**10**はくの字状に外反した口縁端部が外方へ少し肥大する。復元口径19.0cm。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面は斜方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。**11**は復元口径19.0cm。口縁部外面と胴部外面は縦方向ハケ目。口縁部内面は横ナデ調整、胴部内面は横方向ヘラ削り。**12**は口縁部が大きく外湾し、復元口径16.0cm。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面は縦方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。**13**は復元口径13.0cm。口縁部内外面と頸部内面は横ナデ調整。胴部外面は斜方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。

鉢（14～16）　**14**は口縁部外面に段をなし、復元口径13.2cm。内外面ともに細かい横方向ヘラ磨き。**15**は復元口径12.4cm。内面と口縁部外面は横ナデ調整。体部外面上位は横ナデ調整、下位は横方向ヘラ削り、**16**は内外面に朱塗りを施し、復元口径15.8cm。内面はナデ調整の上に細かいヘラ磨き。体部外面は横方向ヘラ磨き。この他にもう1個体朱塗り鉢があるが、細片のために図化できなかった。

手捏ね土器（17～18）　**17・18**ともに完形で、**17**は口径6.0cm、器高3.3cm。**18**は口径4.0cm、器高2.9cm。

ＳＫ１３６出土遺物（Fig. ５－19）　口縁端部が少し内傾する鉢でほぼ完形。口径13.0cm、器高6.2cm。口縁部外面は斜方向ハケ目の上に内外面ともに横ナデ調整。他は器表が荒れており調整不明。

ＳＫ１４１出土遺物（Fig. ６－１）　大型の鉢で口縁端部が少し外湾する。復元口径16.4cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は斜方向ハケ目、内面はナデ調整か。

ＳＫ１４４出土遺物（Fig. ６－２～５）　**2**はくの字状に外反した口縁端部が外方に少し肥大し、端面は凹線上となる。復元口径17.2cm。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面は縦横方向ハケ目、内面は斜方向ヘラ削り。　**3**は口縁部が緩やかに外湾し、復元口径12.8cm。口縁部外面は縦方向ハケ目の上に内外面に横ナデ調整。胴部外面は斜方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。　**4**は蓋で宝珠つまみは退化している。復元口径17.4cm、器高6.8cm、つまみ径2.2cm、つまみ高1.5cm。つまみと口縁部内外面は横ナデ調整。天井部外面は回転ヘラ削り、内面はナデ調整。　**5**は杯で復元口径12.0cm、器高4.4cm、高台径8.7cm。

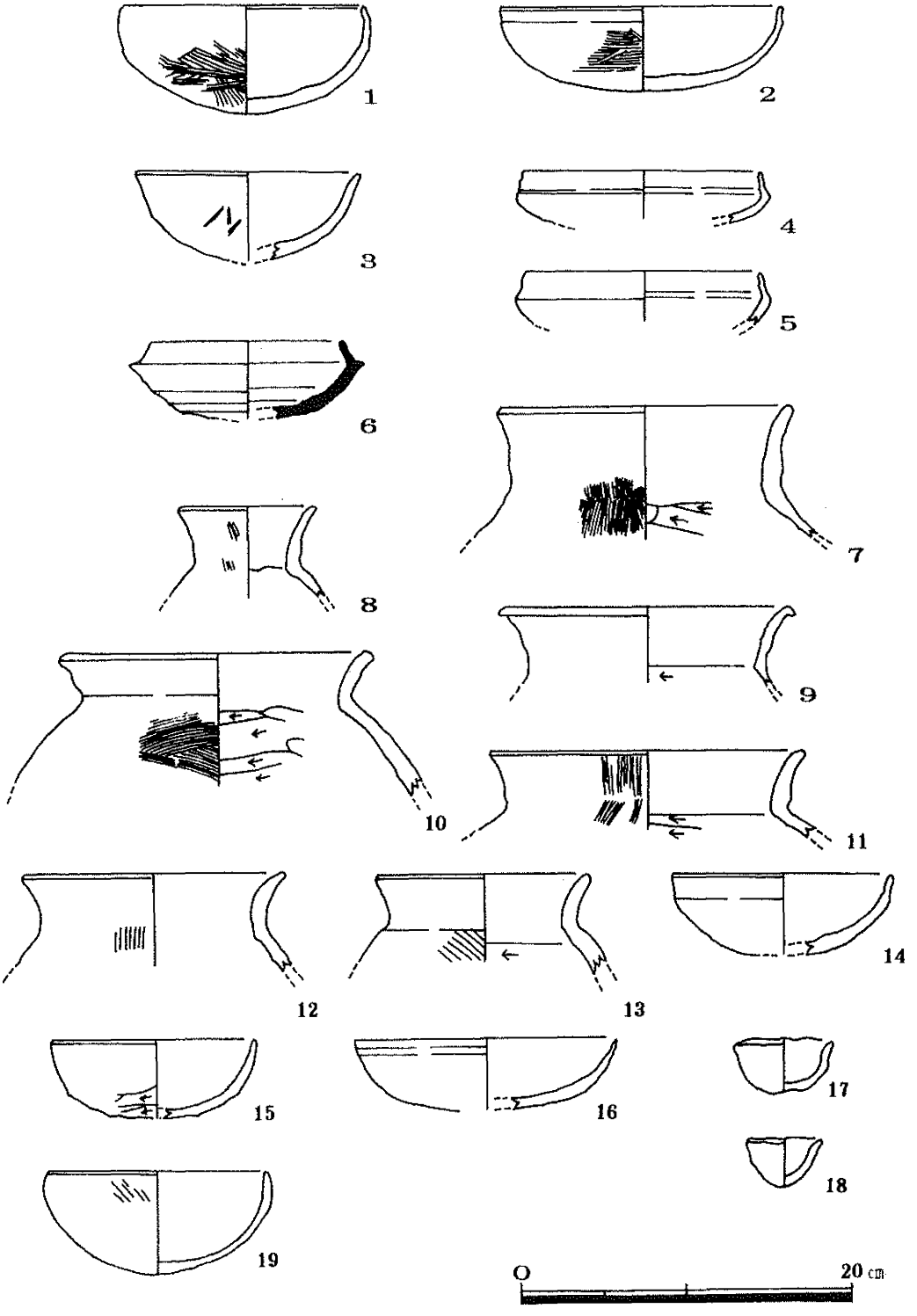


Fig. 5　SK130・131・133・135・136実測図（1/4）

体部外面に自然釉が付着する。

ＳＫ１４７出土遺物（Fig. ６－６～11）　**6**は天井部外面にヘラ記号を有する蓋で、口径12.4cm、器高4.6cm。口縁部内外面は横ナデ調整。天井部外面はナデ調整で、一部弱い回転ヘラ削りか、内面は指押さえの上にナデ調整。**7**は高台部を欠失する杯で、復元口径13.6cm。横ナデ調整。**8**は口縁部を欠失し、復元口径10.0cm。横ナデ調整。**9**は口縁部外面に断面三角形の突帯を貼り付ける甕で、復元口径13.4cm。口縁部内外面と胴部内面は横ナデ調整。胴部外面は横方向カキ目。**10**は口縁部が外湾する甕で、復元口径11.8cm。口縁部内外面は横ナデ調整。胴部外面は斜方向ハケ目、内面は横方向ヘラ削り。**11**は口縁上面が水平となる皿で、復元口径20.4cm。横ナデ調整。

ＳＫ１４８出土遺物（Fig. ６－12～13）　**12**はたちあがりが大きく内傾する杯で、復元口径13.0cm。横ナデ調整。**13**は口縁部が大きく外湾する甕で、復元口径18.8cm。口縁部内外面と胴部外面は横ナデ調整、内面は横方向ヘラ削り。

ＳＫ１４９出土遺物（Fig. ７－１～３）　**1**はたちあがりが短く内傾する杯で、復元口径10.2cm。横ナデ調整。体部外面に自然釉が付着する。**2**は口縁部が大きく外湾する甕で、復元口径16.6cm。口縁部内外面と胴部外面は横ナデ調整、内面は横方向ヘラ削り。
3は復元径2.8cm、器高1.23cmを測る円形土器である。形態からすると紡錘車に似ているが、中心の小孔が円形とならず、紡錘車とは考えられない。

ＳＫ１５５出土遺物（Fig. ７－４～５）　**4**は復元口径12.2cm、器高3.5cm、高台径8.6cmを測る杯で、横ナデ調整。口縁部内外面に自然釉が部分的に付着する。**5**は復元口径15.4cmを測る鉢で、口縁部がくの字状に短く外湾する。口縁部と胴部は横ナデ調整。底部外面は回転ヘラ削り、内面はナデ調整。口縁部と底部の外面に部分的に自然釉が付着する。

ＳＤ０２３出土遺物（Fig. ７－６～８）　**6**は口縁部が大きく外反するが、胴部に比較して器厚が薄い。復元口径17.6cm。口縁部内外面と胴部外面は横ナデ調整。頸部内面はナデ調整。胴部内面は横方向ヘラ削り。**7**は復元口径15.8cmの甕で、口縁部内外面は横ナデ調整。胴部内面は横方向ヘラ削り。**8**は杯で復元口径9.4cm。調整不明。

ＳＤ０２４出土遺物（Fig. ７－９～10）　**9**は口縁部を欠失する壺。頸径14.2cm、胴部最大径31.8cm。口縁部内外面は回転横ナデ。胴部外面は縦方向タタキの上に部分的に横方ナデ調整。底部外面は縦横方向タタキ、内面は指押さえ。頸部内面に粘土紐の継ぎ目が残る。口縁部外面には９条と８条を単位とする櫛描波状紋が施される。口縁部内面・肩部外面・底部内面に自然釉が付着するが、特に肩部に厚く付着する。**10**は復元口径11.9cmの杯で、横ナデ調整。

ＳＤ０２５出土遺物（Fig. ７－11）　底部を欠失するが、小型杯であろう。復元口径

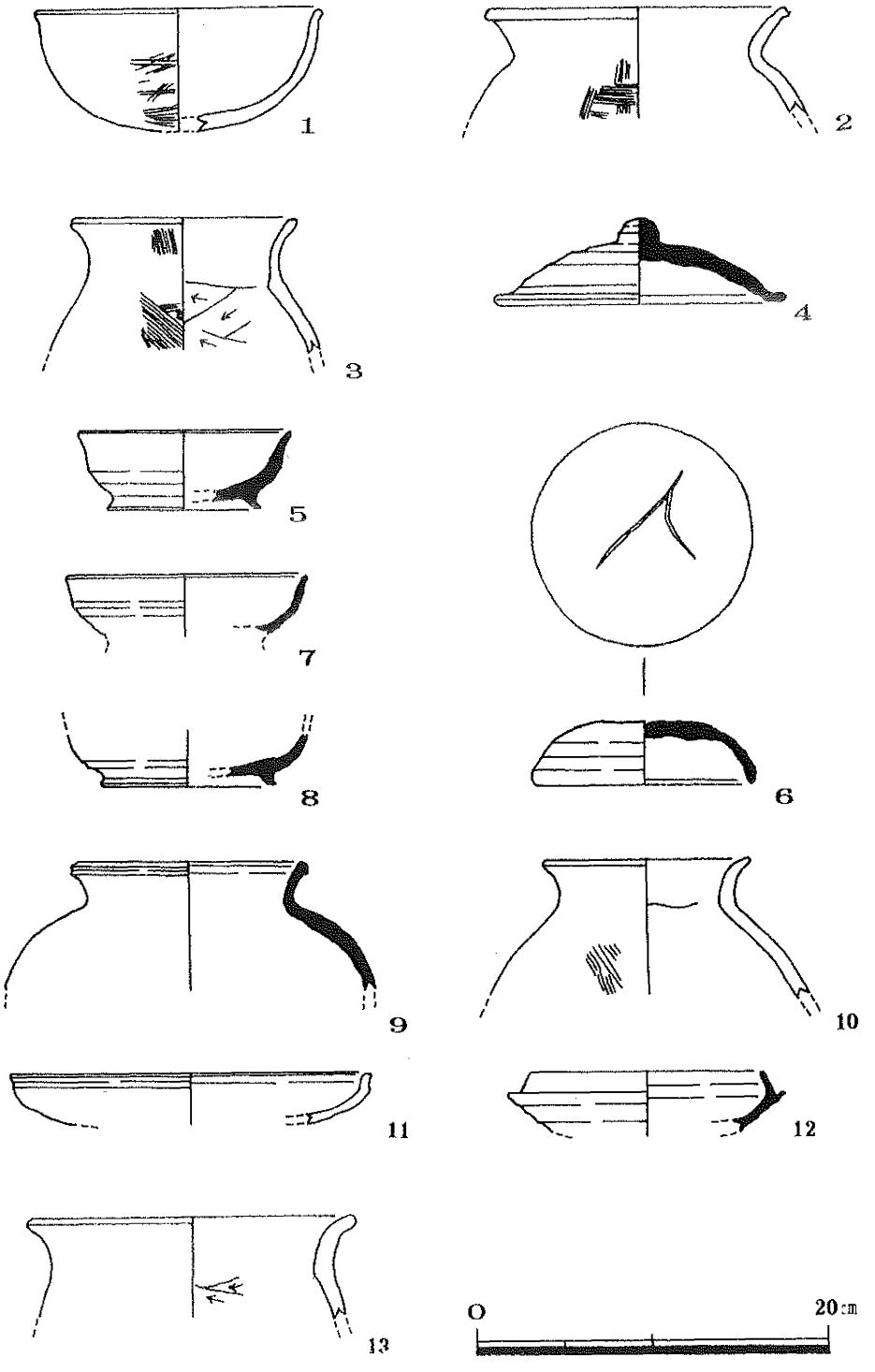


Fig. 6　S K 141・144・147・148出土遺物実測図（1/4）

9.7cm。口縁部内外面は横ナデ調整。体部外面は回転ヘラ削りか。

2．その他の出土遺物（Fig. 8－1～13）

表土中から出土した遺物をまとめて記す。**2・3**はいずれも完形の弥生土器鉢で、体部外面はハケ目。**2**は口径12.1cm、器高9.3cm。**3**は口径9.1cm、器高8.9cm。**1**は弥生土

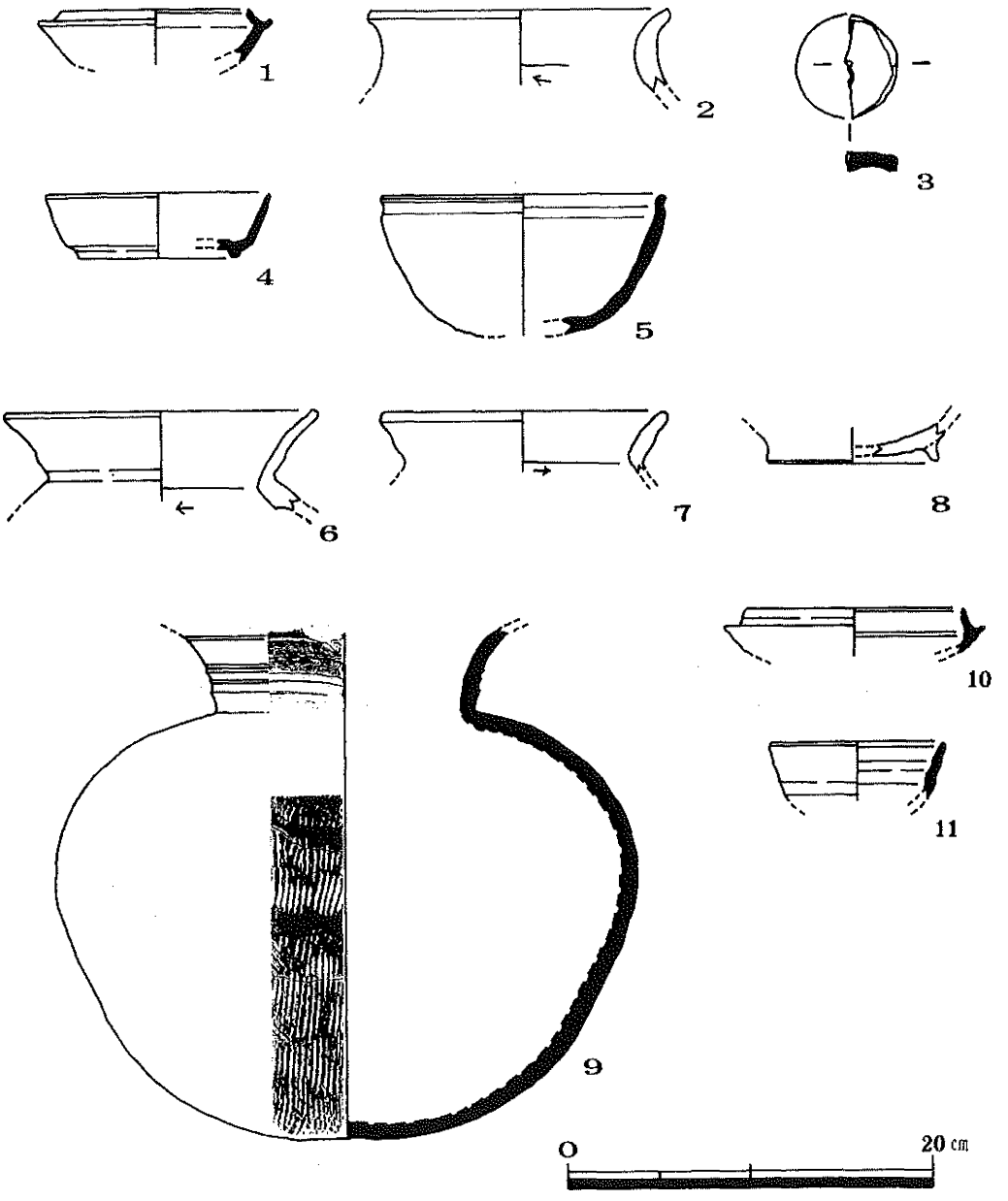


Fig. 7　ＳＫ149・155、ＳＤ023・024・025出土遺物実測図(1/4)

器台付甕の脚部のみで脚径10.8cm。外面は縦方向ハケ目。**4**は甑と思われるが、復元口径14.2cm。体部外面は縦方向ハケ目、内面下位は斜方向ヘラ削り。**5**はたちあがりが長く、復元口径9.8cm、器高4.4cm。底部外面は回転ヘラ削り。**6**はたちあがりが短く内傾し、復元口径10.8cm、器高3.2cm。前面に自然釉が付着する。**7**は復元口径18.4cmの甕で、調整不明。8・9は椀で、**8**は復元口径14.4cm。**9**は復元口径15.4cm、器高6.5cm。内外面ともに化粧土を施したのか、赤色系の土が全面に付着している。**10**〜**12**は手捏土器で、**10**は口径10.5cm、器高4.8cm。調整不明。**11**は脚付鉢で口径6.4cm、器高5.5cm、脚径4.4cm。

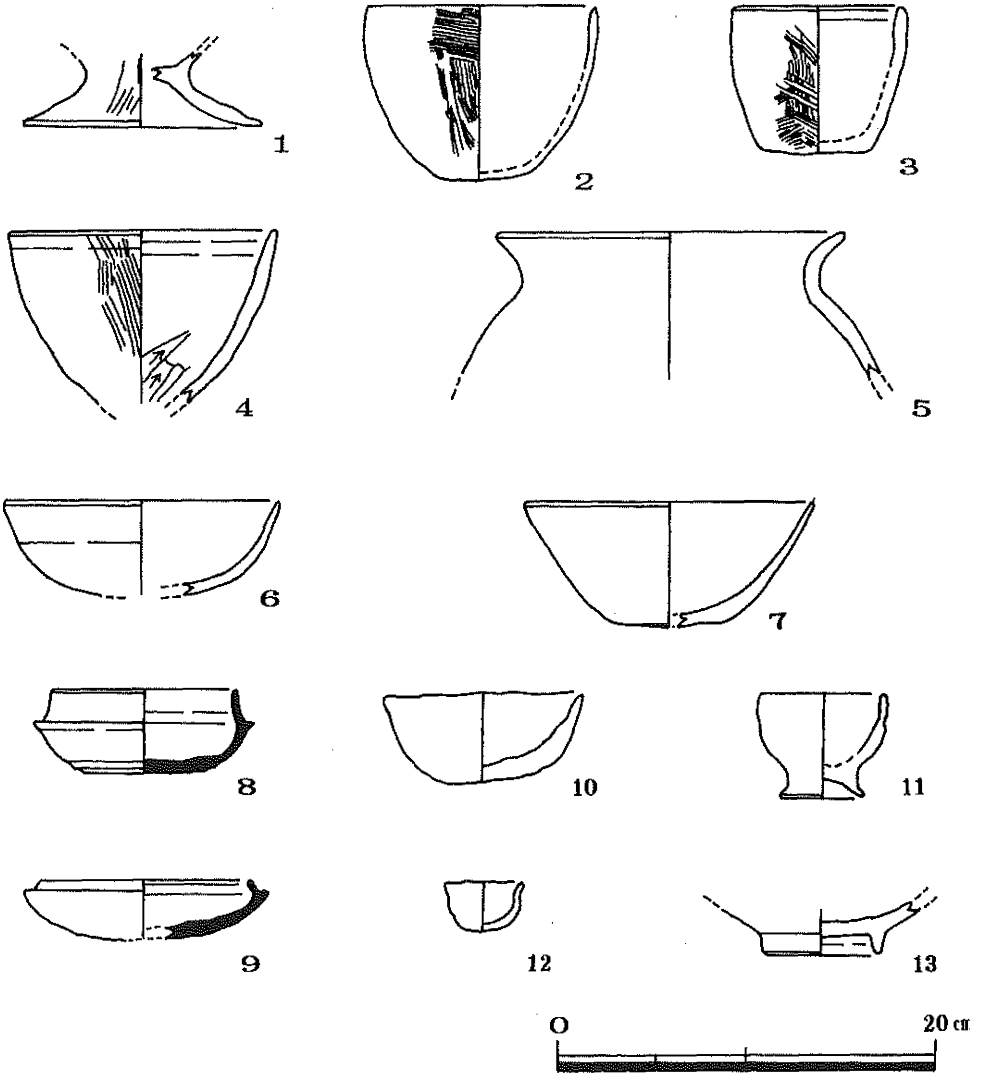
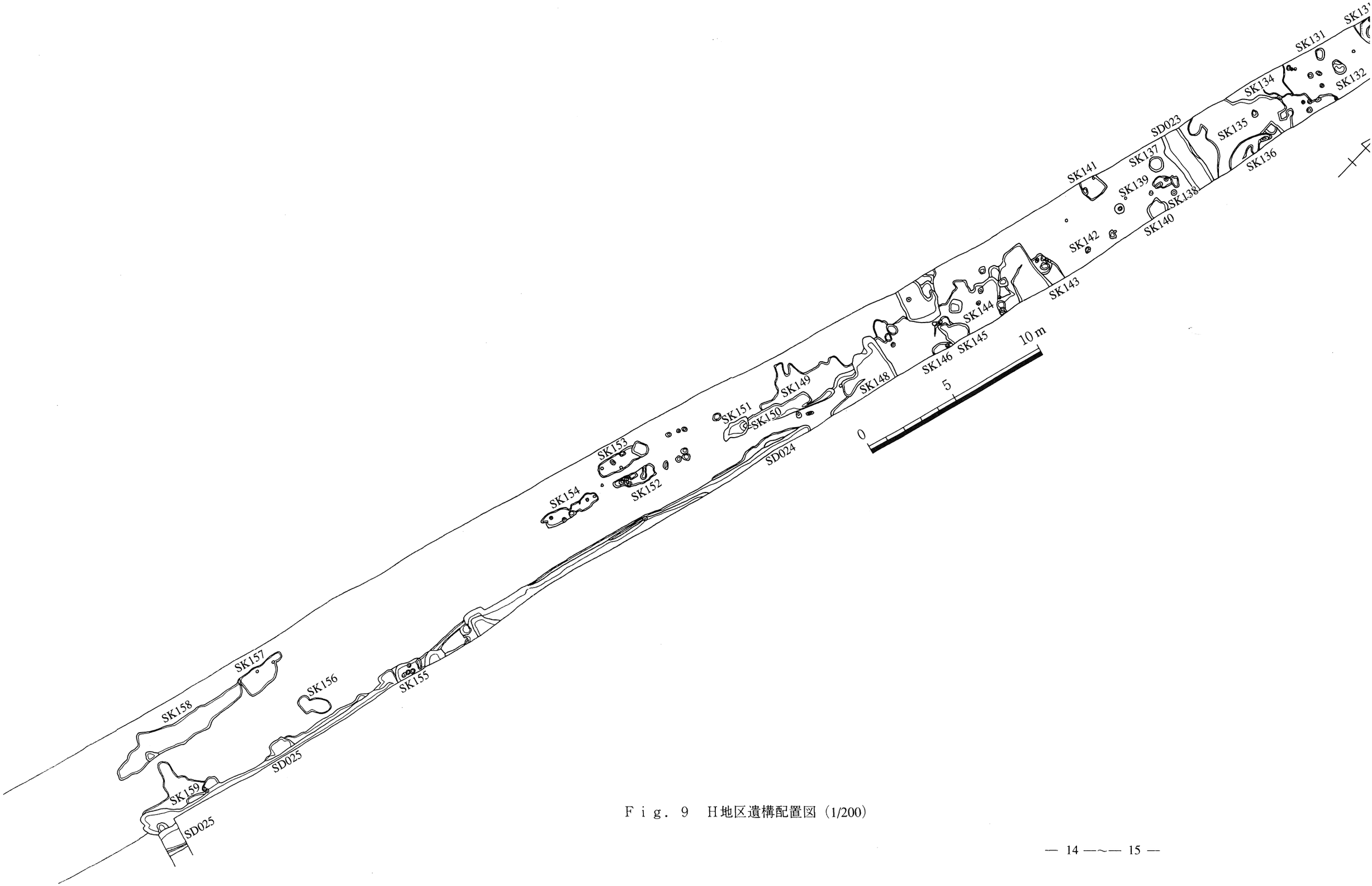


Fig. 8　その他の出土遺物実測図(1/4)



Ｆｉｇ．９　Ｈ地区遺構配置図（1/200）

脚部外面は縦方向指押さえ、他はナデ調整。**12**は口径4.2cm、器高2.25cm。**13**は白磁碗で、削出し高台径は6.4cm。体部は回転ヘラ削り。見込み部に淡緑灰色釉がかかる。

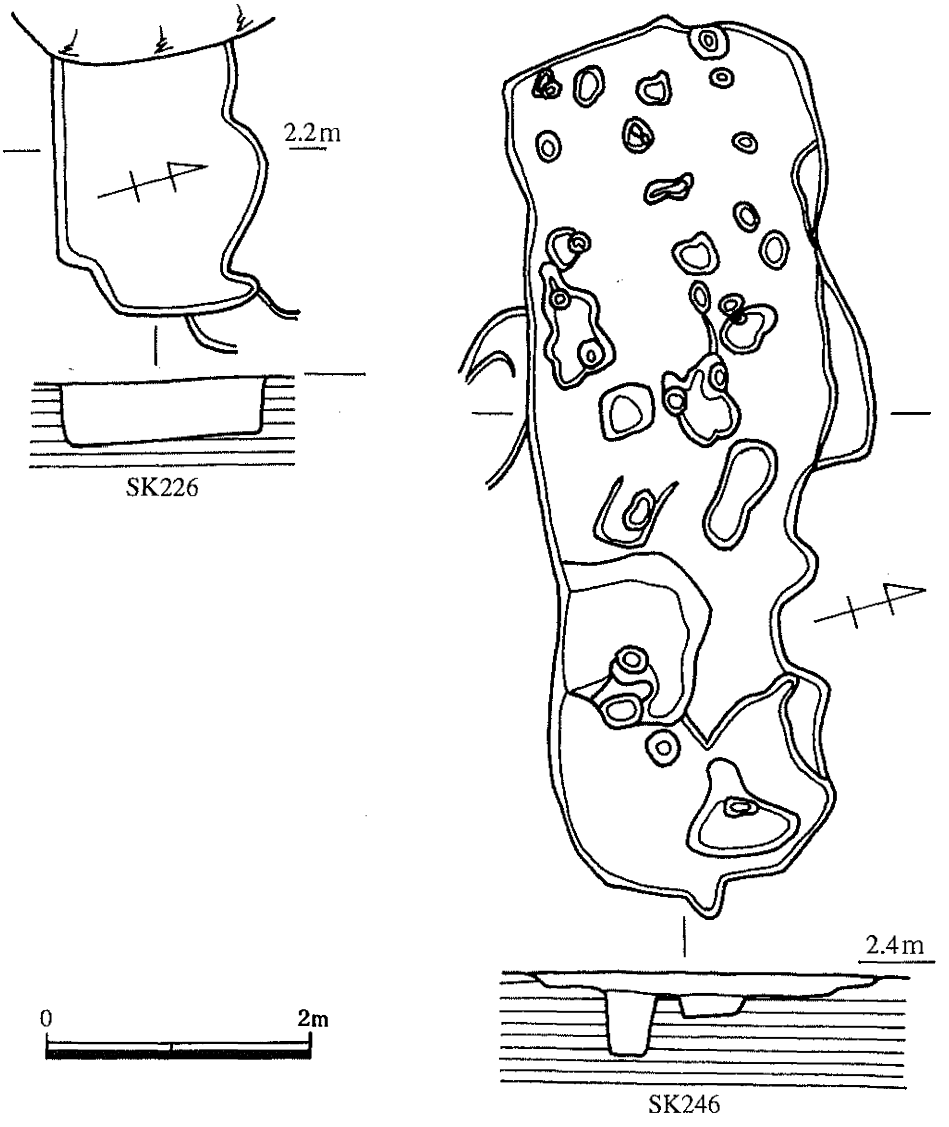


Fig. 10　SK226・246実測図（1/60）

Ⅳ　J 地 区

1．遺構と遺物

ＳＫ２２６（Fig. 10）　調査区西端で検出した不整形土壙である。西端部は撹乱を受けており、長軸2.15m、短軸1.7m。深さは南側で30cm、北側で20cmを測る。

ＳＫ２４６（Fig. 10）　長軸7.1m、短軸2.8m、深さ15cmを測る不整長方形土壙である。底部西側に径20～30cmの小孔が多数ある。東側は一段深く掘り込まれている。

ＳＫ２２６出土遺物（Fig. 11－1）　図示できたのは１点のみである。復元口径10.8cm、器高5.0cmの鉢で、底部外面は横方向ハケ目、他はナデ調整。

ＳＫ２４６出土遺物（Fig. 11－2）　図示できたのは１点のみである。口径14.7cm、器高4.6cmの杯で、体部外面に「神」と墨書されている。底部外面はヘラ切り未調整、他はナデ調整。

2．その他の出土遺物（Fig. 11－3～6）

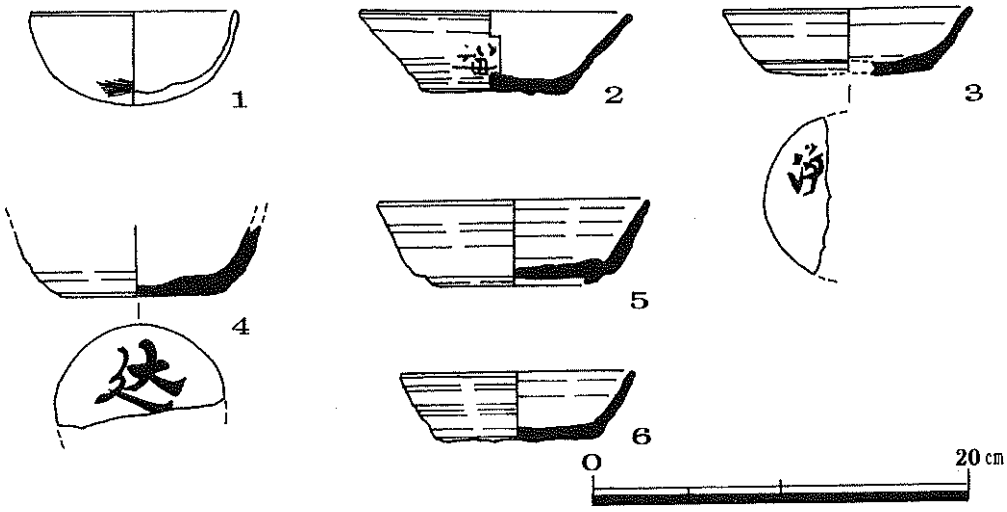
表土中から出土した遺物をまとめて記す。３は復元口径13.2cm、器高3.6cmの杯で、底部に「淨」と墨書されている。底部は板切底か、他は横ナデ調整。４は底径9.0cmの杯であろう。底部に「达」（「達」の異体字）が墨書されている。底部はナデ調整、他は横ナデ調整。５は復元口径14.6cm、器高4.6cmの杯で、低い貼付高台がある。底部内外面はナデ調整、体部内外面は横ナデ調整。６は復元口径12.6cm、器高3.6cmの杯で、底部外面はナデ調整、他は横ナデ調整。

Ⅴ　小 結

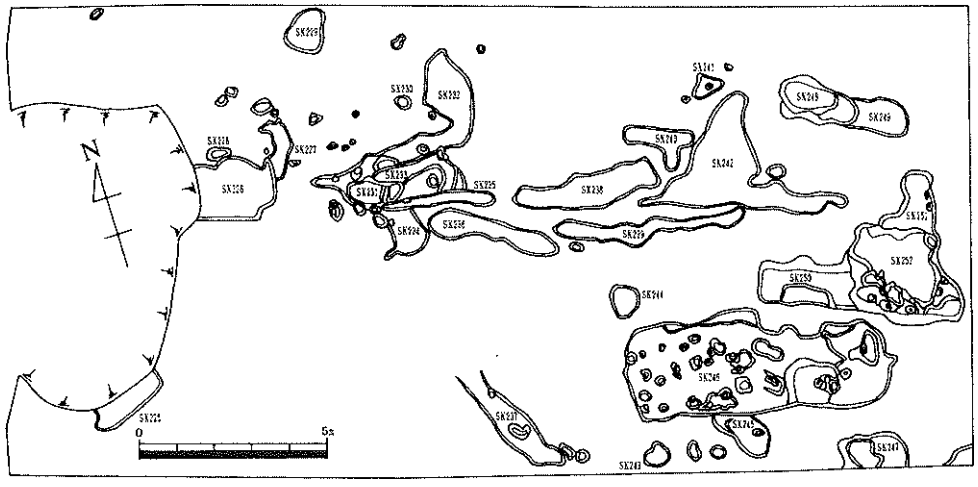
調査対象地が水路予定地内の調査であったために、面的に充分に把握できたとは言いがたい点がある。検出された遺構も土壙と溝のみで、住居跡は検出できなかった。

しかしながら、出土した遺物からは古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡であることが推定できる。特に、表土除去中からではあるが、Ｊ地区から出土した墨書土器は、多田遺跡の性格を推定する上で重要な遺物であろう。

『肥前国風土記』の「杵島郡」条に記される「郡」（郡家）については、武雄市鳴瀬またはその南方の片白付近に比定されている。また肥前国府から西に延びる官道（駅路）も小城郡高久駅（多久市）から杵島山西方の杵島駅を経由して藤津郡塩田駅（塩田町）へと至る。多田遺跡は、郡家・駅家とは杵島山を挟んだ東側に当たり、役所的な施設の存在を推定することは困難ではあるが、他にも墨書土器が出土した湯崎東遺跡とともに、奈良時代における杵島山西方周辺地域における中核的な位置を占めていたことが推定されるのである。



Ｆｉｇ．11　ＳＫ226・246、その他の出土遺物実測図（1/4）



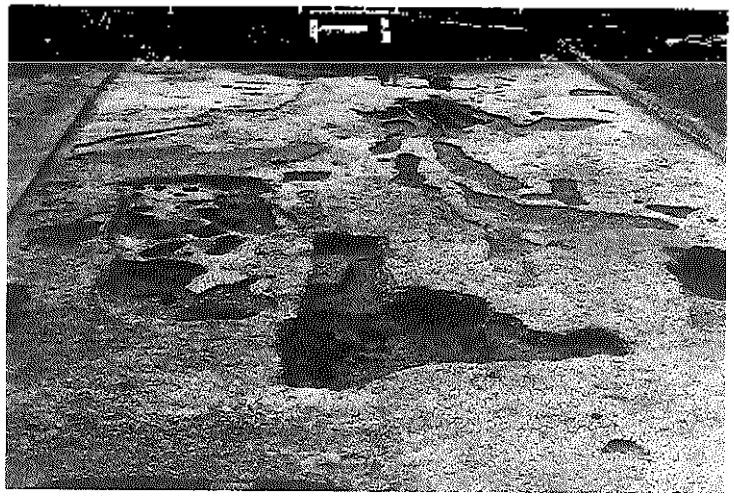
Ｆｉｇ．12　Ｊ地区遺構配置図（1/200）

図　　版

1　H地区全景（北から）

2　H地区全景（南から）

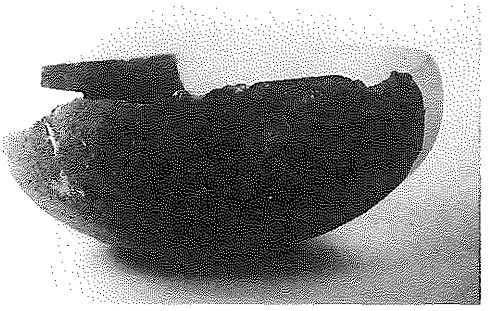
3　SDO24（南から）

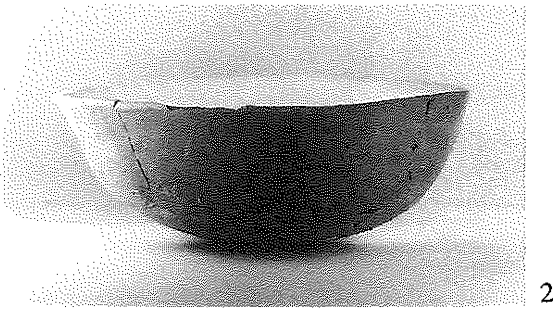


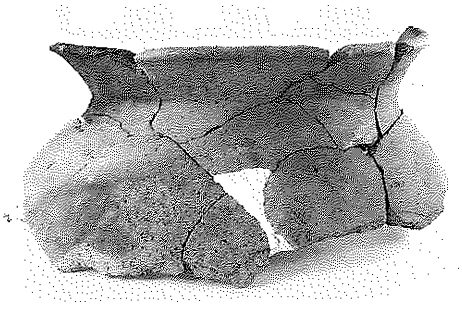
1　J地区全景（東から）

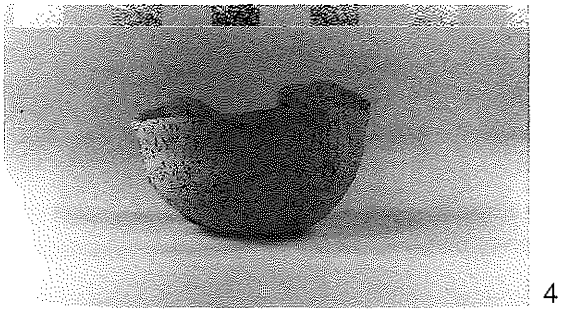
2　SK246（東から）

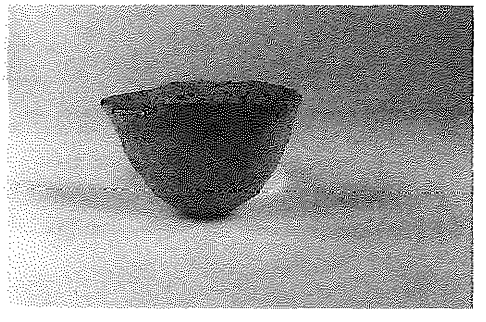
3　SK250-251-252（東から）


1


2

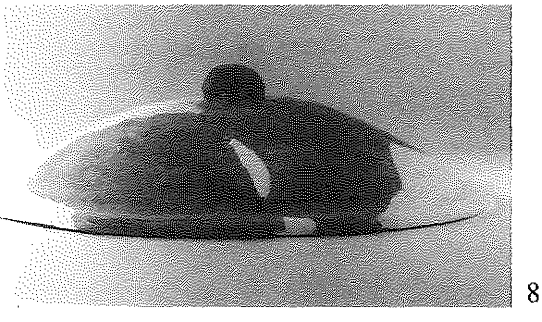

3

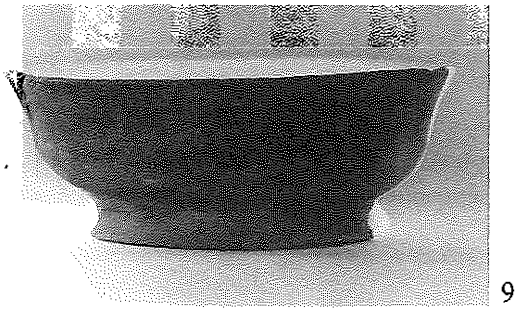

4

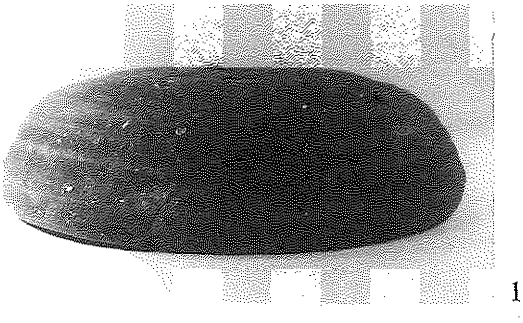

5

6

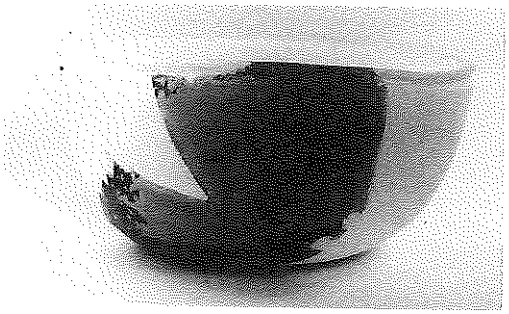
7


8


9

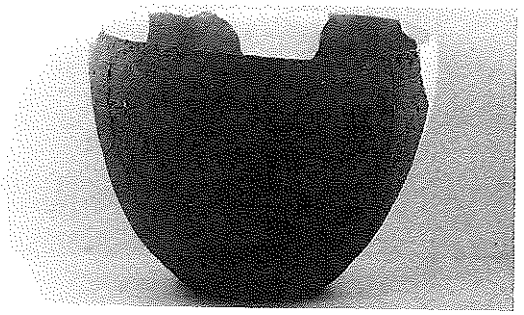

10

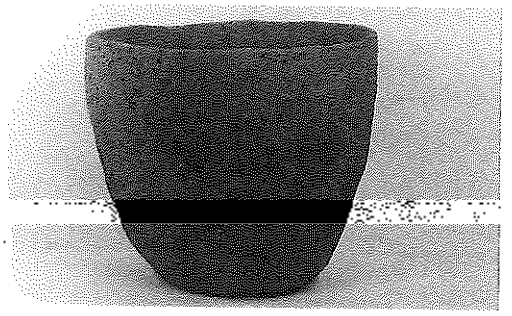
1 SK130 (5-1)
2 SK130 (5-3)
3 SK135 (5-10)
4 SK135 (5-17)
5 SK135 (5-18)
6 SK136 (5-19)
7 SK141 (6-1)
8 SK144 (6-4)
9 SK144 (6-5)
10 SK147 (6-6)

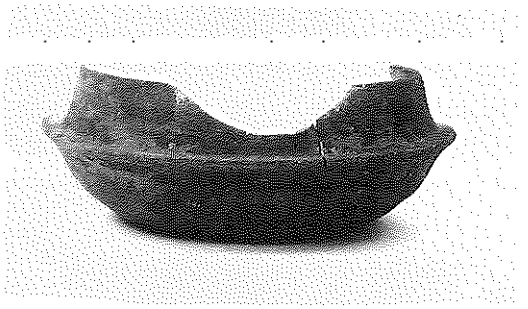

1

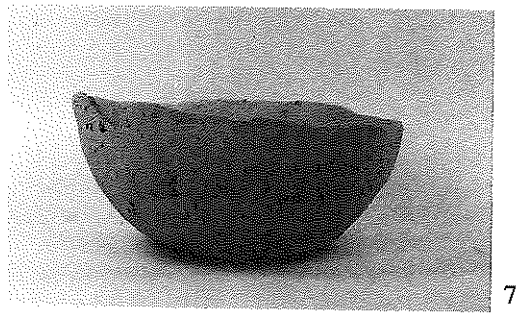
2

3

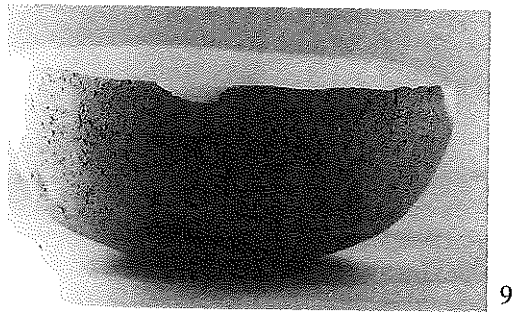

4


5

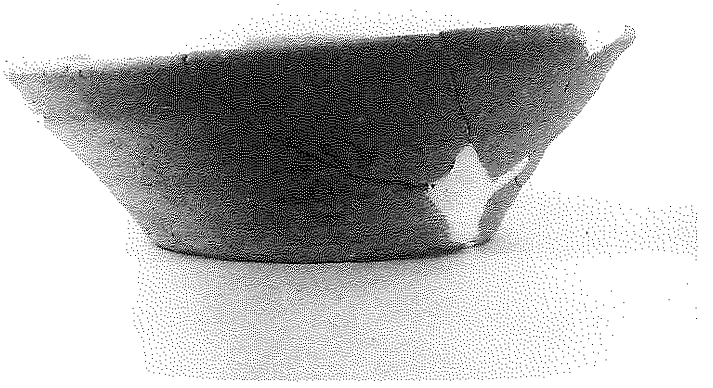

6


7

8


9

1 SK115 (7-5)
2 SDO20 (7-9)
3 表土中 (8-1)
4 表土中 (8-2)
5 表土中 (8-3)
6 表土中 (8-8)
7 表土中 (8-10)
8 表土中 (8-11)
9 SK226 (11-1)



1

2

3

1　表土中（11-2）

2　表土中（11-3）

3　表土中（11-4）

白石町文化財調査報告書第１集

多　田　遺　跡

平成４年３月

発行　白石町教育委員会
　　佐賀県杵島郡白石町大字福田1809-1
印刷　岸川印刷
　　佐賀県杵島郡白石町大字福田1568-9